

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0591100052
法人名	社会福祉法人 交楽会
事業所名	グループホームもりの郷
所在地	秋田県北秋田市小又字平里63番地 (電話) 0186-75-3300
評価機関名	財団法人 秋田県長寿社会振興財団
所在地	秋田市御所野下堤 5-1-1
訪問調査日	平成21年 12月 10 日

【情報提供票より】 (平成21年11月14日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 18年 12月 10日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9人
職員数	7人 常勤 7人, 非常勤 人, 常勤換算 7人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造一部木造 造り 1階建ての ~ 1階部分
------	----------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有 ( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	350 円
	夕食	300 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (11月 14日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名
要介護1	2名	要介護2	4名		
要介護3	2名	要介護4	1名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 82歳	最低	74歳	最高	90歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	公立米内沢総合病院 くるみ歯科医院
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは川沿いの自然豊かな、複合ケアセンターの一角にある。大きな窓から住み慣れた地域の風景を一望することができ、安心感を得ることが出来る。「その人の有する能力に応じて自立した日常生活を営むことができる」という理念のもと、入居者に寄り添いながら個別ケアに取り組んでいる。入居者の殆どが地域に自宅を保有したままとなっており、定期的に自宅に帰宅する外出支援を行い、地域の方との交流を継続することが出来ている。複合センターの機能を活用し、通い・泊まりの地域の方との交流等も行われている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
	前回外部評価で挙げられた改善点については、前向きに取り組みを続けている。 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
重点項目②	現在取り組んでいることを自己評価と照らし合わせ、モニタリングし、今後より良いケアを提供することができるよう課題を明確にしている。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
重点項目③	運営推進会議は、自治会長、民生委員、利用者・家族、行政機関担当者、ホーム代表者が参加して、2か月1回開催している。現在のサービス内容を報告し意見を頂いている。また、認知症サポートキャラバンの開催を検討するなど、地域での認知症に関する啓蒙活動に取り組もうと努めている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
重点項目④	法人のオンブズパーソンによるアンケートの実施や、行事の際に意見・要望等の相談を行い、運営に反映している。家族が県外在住の方には、電話での聞き取りも実施している。
	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
	地域の行事に積極的に参加するとともに、グループホームを開放し交流の場として提供する機会を設けている。また、定期的な自宅への外出を行うことにより、住み慣れた自宅近隣住民との関係を継続できるよう支援を行うなど、地域に根差した暮らしができるよう取り組んでいる。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念を根幹としたうえで、住み慣れた地域で、利用者主体の支援を心がけ、個人の気持ち・欲求に寄り添う支援ができることをホームの理念とし、作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの理念である「その人の有する能力に応じて自立した支援生活を営むことができるよう支援する」ことができるように個別ケアの実践に取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	季節行事や食事会などでホームを開放し、近隣住民との交流会を実施している。又、敬老会・文化祭等地域の行事にも積極的に参加している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果や、法人のオンブズマンによる定期的なアンケート結果・意見などを受け入れ、改善できるよう取り組んでいる。アンケート結果が「概ね良い」の評価が多いが、具体的な表現をして頂き、サービスの向上に繋がれるように改善を検討している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、法人内の他グループホームと合同で開催している。介護保険・グループホームに関する啓蒙活動を実施している。グループホームでの実際の生活を理解して頂くために、具体的な説明を行い、会議で話し合われた事は運営に活かされている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推会議のメンバーに行政職員がおり、現状やサービス内容などを報告している。行政には1ヶ月に1回訪問している。地域包括支援センターとは退院後の支援など利用者の具体的なことについて相談している。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が県外在住の方が多く、行事・日常生活の状況等を「もりの郷暦」として家族に配布している。また、現状を電話で報告し、その際に「地域の中で連れて行きたい場所」等の要望を取り入れている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人内にオンブズパーソンが設置している。家族アンケートを集計し改善点を示したり、行事の際はオンブズパーソンが家族等の相談にのる等、家族の意見を反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホームに異動の職員は早めに来て馴染んでもらい、ホームから異動する職員は、口頭できちんと話して、入居者がけじめをつけることができるように配慮し、ダメージを防ぐように努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のレベルに応じてホーム内・外の研修を受講し、伝達講習を実施している。また、ホーム内はもちろん、法人としての職場内研修を行い、職員のスキルアップに努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	入居者の在宅時のケアマネジャーに定期的に状態を報告している。グループホーム連絡協議会・居宅連絡推進会議に参加したり、他グループホームとの交流を行い、情報交換や勉強会などのネットワーク作りをしている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	入居時に本人の生活歴・性格等の把握に努め、サービス導入を行っている。入居者の情報・状態を把握しやすいように、関連付けて考えられるよう記録類をまとめる工夫がされている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理・下ごしらえ・配膳・畑作業等を一緒に行いながら、コミュニケーションを図っている。入居者から色々なことを学び、尊厳をもって接する姿勢ができています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者に寄り添うことで意向や思いを把握するよう努めている。又、意思表示ができない等、苦手な方に関しては、家族に聞いたり、生活状況から思いを汲み取ったりとできるだけ、本人の思いや意向の把握に努め、支援できるように心がけている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプランは本人・家族と話し合い作成し、担当者が毎月モニタリングを実施し、支援内容を検討している。様式も本人・家族はもちろん職員にも分かりやすいように工夫している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態変化に応じて報告・ケアプランの見直しを実施している。月1回のモニタリングで変更が必要な場合は、グループホーム会議で検討し、新たな介護計画を作成している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	状態に応じてケアホームの特浴を利用したり、複合センターの機能を利用したりしながら、柔軟な対応に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通い馴れた病院への受診を出来るだけ継続し、健康状態や対応方法を医師と相談している。また、服薬に関しては本人が飲みやすいように状況を見ながら一包化の依頼をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に説明をした上で、重度化した際には再度家族・医師と相談し、方針の共有を図り可能な限り支援出来るよう話し合いを行っている。また、往診医の確保や訪問看護ステーションとの連携など、看取りに関する対応を様々な角度から検討している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	その人に合った言葉かけを行っている。居室前の氏名掲示の配慮や、入浴時に、更衣の際も時間が重ならないようにする等プライバシーの確保をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課や集団レクリエーションを廃止し、本人がしたいと思うこと・出来ること（草履作り・雑巾縫い・施設内ディスプレイの手伝いなど）を、それぞれのペースに合わせて行えるよう支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは好みに応じ、一緒に考えたり、味付けなども伺いながら調理している。食事の時には一緒に配膳・片付け等を行っている。また、外食の希望にも応じ支援をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しむように支援している	利用者の健康状態を把握した上で、希望する入浴時間に入浴できるよう支援をしている。入浴中の見守りは1対1で行っており、プライバシーにも配慮しながらコミュニケーションの場として活用している。脱衣カゴも昔懐かしい物を使用し、楽しい入浴の雰囲気作りを行っている		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者それぞれが、継続して出来ていることを見つけ、自分の役割として発揮できるよう支援をしている。捨て猫や雀の飼育など、動物を通しての楽しみを持てるような支援も行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	テラスに出て日光浴等が出来るようにされている。突発的な外出も可能な限り実施し、外食なども支援している。また、自宅への外出も支援されており、自宅地域の方達との交流が途絶えないよう配慮されている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	居室の施錠は内側からだけになっており、グループホーム側では施錠しない。巡視や見守りの際に物音等に配慮しながら、安全の確保に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	川沿いという立地から、豪雨時には避難勧告を直接連絡頂くよう働きかけている。また、地域の協力を得ながら、定期的に避難訓練も実施している。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量等を個人ファイルに記載し、分かりやすくしている。入居者の食習慣に合った物を提供出来るように工夫している。昼食・夕食はケアホームから提供されており、栄養バランスも考慮されている。水分は嗜好に合ったもので摂取できるよう複数準備している		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間と食堂は開放されており、窓が大きく採光も十分であり、外の風景が良く見えるようになっている。日差しロールカーテンで調節することが出来ている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いなれた物・写真など好みのものを配置出来るよう相談している。また、収納スペースを本人に分かりやすいように活用し、居室のスペースを活かしている。		

※  は、重点項目。